

第17回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(愛知大会)の報告

1. はじめに

8月3日(土)、4日(日)の2日間、第17回全国高等学校情報教育研究会¹⁾全国大会(愛知大会)が、愛知県立大学長久手キャンパスを会場に開催された。

愛知大会は、本来は第13回大会として、4年前の令和2年に実施される予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、愛知県での開催は中止となり、オンライン大会として開催された経緯がある。

4年間の想いが詰まった本大会には、オンライン参加を含め、多数の参加があった。会場は活気にあふれ、素晴らしい大会となった。

2. 大会概要

【テーマ】教科「情報」第3ステージ

～未来を拓く情報教育～

【期日】令和6年8月3日(土)から4日(日)まで

【会場】愛知県立大学 長久手キャンパス

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】愛知県高等学校情報教育研究会

愛知県公立大学法人 愛知県立大学

【後援】愛知県教育委員会 他

【大会 URL】<https://www.zenkojoken.jp/17aichi/>

【プログラム】

○8月3日(土)

13:00～ 開会行事(開会挨拶他)

13:35～ 基調講演

講演者：中村 翼氏

有志団体 Dream On 代表

(一社)Dream On Management 代表理事

演題：「未来を拓く共創活動～次なる“空飛ぶクルマ”を生み出す人をどう育むか～」

14:50～ 分科会(セッション1・2)

3会場に分かれ2件ずつ実施

1件につき発表20分 質疑応答5分

15:55～ ポスターセッション／企業展示／VR
体験会

17:20～ 懇親会

○8月4日(日)

9:30～ 分科会(セッション3・4・5)

11:05～ 分科会(セッション6・7)

12:00～ 休憩

13:00～ ポスターセッション／企業展示

14:10～ 講演

講演者：田崎 丈晴氏

国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官

演題：「デジタル化が進む中で情報科の授業
実践へ期待すること」

15:15～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 基調講演

空飛ぶクルマを開発し、日本初の有人デモ飛行を実現した有志団体の代表である中村翼氏の講演は、空飛ぶクルマのコンセプト動画からスタートした。

講演の前半では、空飛ぶクルマを生み出すまでにどのような試行や行動があったのか、空飛ぶクルマの開発経緯とともに、その想いについて語られた。

後半では、今後の教育の参考になりうることで、自分自身の体験から得られた3つの大事なこと、①「自分の想いと対峙する」、②「試行から学びを得る」、③「外に対して発信する」について、次のように話された。

①「自分の想いと対峙する」

自分が本当にやりたいことは何かを考えること。自分でそれを言語化できたのが「モビリティを通じて次世代の人達に夢を提供したい」だった。以降は、これが自分の軸となった。自分のやりたいことと対峙することが、自分の軸を見出すために大事だった。

②「試行から学びを得る」

想いがあるなら、先に学ぶのではなく、やってみて、そこから必要なことを学んでいけばいいと言われたことがある。自分の想いから必要なことを

身に付けていくことで、自分で道を開くことができる、今本当に感じている。

③「外に対して発信する」

メディアに取り上げられたことで、実現したこともある。自分たちのやっていることを発信し、多くの方に知っていただく中で、実を結ぶようになったこともある。発信することの大切さを改めて感じた。

最後に、空飛ぶクルマを実現した、0から1を生み出した経験を生かして、次なる未来を目指す人を育むための活動を始めたことについて紹介され、講演を締めくくられた。

(2) 分科会発表

3会場に分かれ、2日間で21件の発表が行われた。発表は授業実践の報告が多く、厳密な分類は難しいが、プログラミングの指導に関する内容が6件と一番多かった。次は、データの活用に関する発表が5件、問題解決に関する発表が4件あった。プログラミングやデータの活用に関する発表が多いのは、昨年度の大会と同じ傾向だが、今年度は、生成AIを活用した授業実践の発表も3件あり、生成AIを授業に取り入れた様子が報告された。

なお、発表者の許可が得られた発表については、大会サイトで動画が公開されており、ほぼすべての発表を動画で見ることができる。

(3) ポスターセッション／企業展示

2日間にわたり、1時間で12件ずつ、計24件のポスター発表が行われた。前回よりも多い31社の企業展示もあり、会場には活気があふれ、非常に混雑していた。ポスターセッションでも、プログラミングに関する発表が9件と一番多かった。生成AIに関する発表も4件あった。大学または大学と高校の連名での発表は12件もあり、分科会発表と比べて、研究や開発に関連する発表も多かった。

ポスター発表の動画はないが、発表要旨が大会サイトに掲載されており、大会冊子にもより詳しい要旨が掲載されているので、参照してほしい。

(4) 講演

田崎丈晴氏の講演では、まず初めに全ての発表者と大会運営に関わった先生方へ、感謝の言葉を述べられた。また、大会資料は、情報の授業がどのように実践されているのかを知る上でとても役立っている。発表や交流を専門性の向上につなげてほしいと

話された。

講演の前半では、情報科が大事にしたい「問題解決」について、「何のための問題解決なのかに迫る発表が多かったことは大変心強い。今大会では、プログラミングそのものを学ぶといった授業ではなく、問題解決の中で、プログラミングや情報デザインの考えを適用して、より良い問題解決をしていくという実践が多く、昨年度にも増して充実していた。質の高い大会だった。」と2日間を振り返られた。

後半では、GIGAスクール構想やOECD生徒の学習到達度調査、骨太方針2024、DXハイスクール、情報Ⅱ授業解説動画、デジタル人材育成の話など、数多くの話題に触れられた。多くの発表があった生成AIについては、生徒が生成AIやそれを取り巻く技術的なことを理解することは、どの分野に進んだとしても生かされる力になる。情報科だからこそ、先端技術を積極的に取り入れ、問題解決を通して探究的な学びを充実させて行くべきだと話された。

最後に、「2日間の大会で共有された事例は、生徒たちの期待に応えられる実践ばかりだった。それらを広めていくことが大事。ぜひ地元の研究会で、実践事例を共有していただきたい。」とまとめられた。

4. 大会資料について

大会サイトで動画視聴申込をすることで、講演のスライド資料のダウンロードや分科会発表の動画視聴が可能である。大会冊子は、過去の方も含めてAmazonで購入できる。「参加予定の方への連絡」のページにリンクがあるので参照してほしい。

5. おわりに

来年度の第18回大会は、第5回大会以来13年ぶりの千葉県での開催となる。千葉大会では、大会前日からイベントを実施すること。どんなイベントになるのか、今から楽しみである。

情報科の果たす役割が大きくなる中で、全国の授業実践を共有していくことは、ますます重要になる。ぜひ大会で発表された数多くの実践を、自身の授業づくりに生かしてほしい。

参考文献

- 1) 全国高等学校情報教育研究会, <https://www.zenkojoken.jp/>